

学びっ!

人と自然の応援情報誌

ハーモニー60号
19枚 2-024A3

ひとはく新聞

2008 | 3 | 29号
-保存版-

TEL:079-559-2001 (ひとはくの代表番号です)
TEL:079-559-2002 (学校の先生方はこちらにおかけください)
TEL:079-559-2003 (セミナーやイベントなどのお問い合わせ先です)

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館
(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)
URL:http://hitohaku.jp

hitohaku
news paper
人と自然の博物館
Museum of Nature and Human Activities, Hyogo
http://hitohaku.jp
2008

シリーズ 地域の達人 -野田富士樹氏-



丹波恐竜化石の発掘ボランティアに聞く

2004年4月末に淡路島で見つかったアズダルコ科翼竜化石の発見者。丹波の恐竜化石発見の知らせを南あわじで聞き、これは私にとって一生に2度とない機会だと第1・2次発掘作業に参加。自分の目で確かめたいと、現場近くの宿にて単身赴任のような生活を営む。歴史の新しい1ページを、私たちボランティアも一緒に開こうとしているのだと夢は膨らむ。

万葉集にみる植物

春のひとはく図鑑



「はぎの花 尾花葛花なでこの花 女郎花 またふじばかま あさがおの花」秋の七種を詠んだ山上億良の歌である。秋の七種はこの歌より始まる。万葉集に詠まれている植物を紹介した図鑑。

深田公園にはもっともっと生き物がたくさんいる。見つけた植物や昆虫をよくみて、絵をかいたりメモをとってみよう。博物館4階の図書コーナーでみつけた生き物を調べてみてほしい。

さあ、深田公園を探検だ!!

ひとはく恐竜ラボ 山南ルームがオープン

丹波市山南町谷川・山南住民センター内に昨年の12月に開館した。同館には、第1次・2次発掘調査で搬出された尾椎や血道弓を含む岩塊などが運び込まれ、現在、人博の研究者と松原薫さん、横内悦実さん、そして多くのボランティアの方の協力のもと、これらのクリーニング作業を行っている。化石のクリーニングとは一般にイメージされがちな所謂「洗濯」で

はなく、岩塊から化石をタガネやコンクリート針などを使って慎重に取り出し、そして、化石を覆っている被膜を顕微鏡下でエアーマーキングペンを使って取り除く作業のことを言う。同館は、ガラスで展示室と作業室が別けられており、入館者がこれらの作業をガラス越しに間近で観察することができる。



恐竜化石のクリーニングを行う研究棟が、ひとはくの近接用地に完成する。発掘現場から持ち帰った岩石から化石を取り出す作業を間近に見ることができる。

2008/4/20 OPEN! ひとはく 恐竜ラボ



企画展情報 2008/2/23 ~ 2008/8/20



いよいよ始まった企画展。聞き慣れないタイトルだが、つまりは花の咲かない植物のすべてをあますことなく、そしてわかりやすく紹介するもの。大判写真で見る隠花植物の美(プロが撮影した多数の美しい生態写真)などを一挙公開。

「グループがミック」

ボタニ



岩槻館長 文化功労者に!

第3回「共生のひろば」に45件の発表! 205名が参加!



今回は口頭発表の場を大セミナー室からホロンピアホール(500名収容)にし、より多くの方に参加していただけるようにした。発表数は、口頭発表が19件、ポスター発表・作品展示が26件。発表者は小さな子から70歳を過ぎた方まで幅広く、テーマもさまざまでした。館長賞受賞は占部晋一郎さん(17歳・姫路市在住の高校生)など。おめでとうございます!

「博物館が学校にやってくる!」8つの学校で開催!



神戸市立井吹西小学校や宝塚市立西山小学校など、今年もいくつもの学校でひとはく学校キャラバンが実施された。博物館所蔵の標本やパネルが校内に展示され、児童生徒や保護者、地域の方々に見ていただいた。

ひとはくセミナー 情報も満載!

☆☆プレゼントのお知らせ☆☆

博物館
へ行こう!

季刊誌のリニューアルを記念し、博物館にお越しの方で、本券をお持ちの方、先着300名様にオリジナルグッズをプレゼントしま〜す!どしどしお越しくださませ!(点線部分で切り取って、生涯学習課にご持参下さい)

※ 簡単なアンケートにご協力いただきますので、ご了承くださいませ。